

東住吉小学校の出前授業

1. 実施日:2024.6.5 10:30~11:15
2. 受講生:5年生 1クラス
3. 講座の内容:「SDGs はっぱはえらい」+「木のCO₂吸収量の測定」
4. 講義開始の前に、温暖化模型を使って二酸化炭素(CO₂)が地球の温度を高めているのか否かについての確認実験を行った。ごく少量の二酸化炭素を注入したカプセル内の温度を注入していないカプセル内の温度と比較した。二酸化炭素入りカプセルの方が、わずか40分程度で約3°Cも高くなっていることが観察でき、二酸化炭素が温度を高める作用があることを確認できました。確かに二酸化炭素が気温を高めていることを知ることができ、二酸化炭素の排出量を減らすことが温暖化防止につながることを理解できました。また、二酸化炭素を排出しないエネルギーがあれば、地球温暖化は防げる可能性があることの想像も膨らみました。
5. 葉っぱのお話を聞きました。葉っぱは、光合成で大気中の二酸化炭素を吸収して栄養のでんぷんを作り、酸素と水分を放出し、私たちに貢献していることを学びました。
6. お話を聞いた後で校庭に出て木の幹の太さを測定、日当り・木陰の温湿度を測定しました。更に葉っぱに被せたビニール袋の中の様子も観察しました。水滴がたくさん付いていました。教室に戻り、測定した木の太さから二酸化炭素の吸収量を求めました。ビックリするほどたくさんの二酸化炭素を吸収していることが分かり、葉っぱの働きを理解することができました。



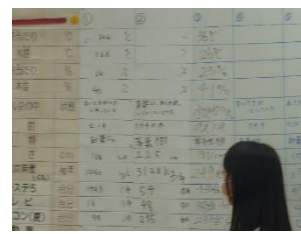
講義の様子



木の太さの測定



CO₂の吸収量の計算中



結果の発表の様子